

据付工事の注意点

■貯湯ユニット

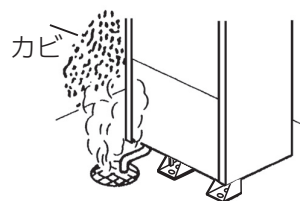
据付場所

- 原則として屋外据え付けです。寒冷地向けで最低外気温が-15℃を下回る地域では、貯湯ユニットは屋内に設置してください。
- 屋内に据え付ける場合は、必ず完全な防水・排水工事を施してください。水漏れが起きた場合、大きな被害の原因になります。
- 防雨形ですが積雪地区に据え付ける場合には、小屋がけをして雪を防いでください。機器に積もった雪や、屋根から落ちた雪で機器が破損、変形し、漏電や感電のおそれがあります。
- 室内に設置する場合は通気口を設け、密閉室にしないでください。結露して、壁面のカビ発生や床面の滴下の原因になります。また、機器の錆び発生なども故障の原因になります。
- HWH-B564T・HWH-F563CTについては、2階以上に据え付けしないでください。
- 機器と建物の隙間寸法については各地区の火災予防条例によって施工してください。
- 電気工事や排水工事および後日の保守点検が容易な場所に据え付けてください。機器前面側を約500mm以上あけてください。
- 入れ替えやすく、運搬が可能な場所（開口部等が十分にある）に据え付けてください。
- 境界線までの距離が少ない場合には、製品の左右側面の一方を建物に接して施工してください。メンテナンスを行うのが容易になります。

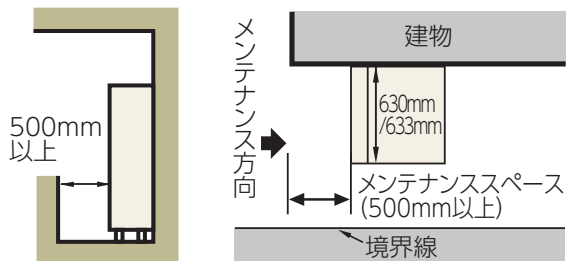
●積雪地域では雪を防ぐ



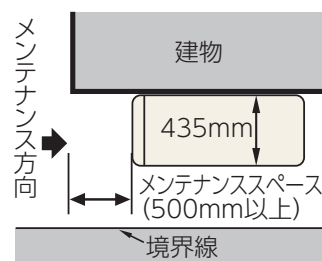
●室内に設置するときには通気口を設ける



■角型タイプの場合



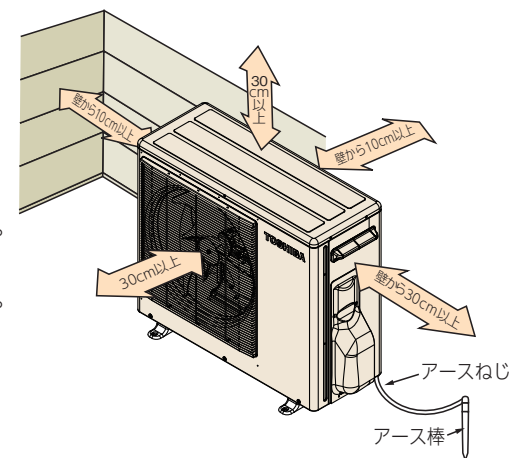
■薄型オーバースリムタイプの場合



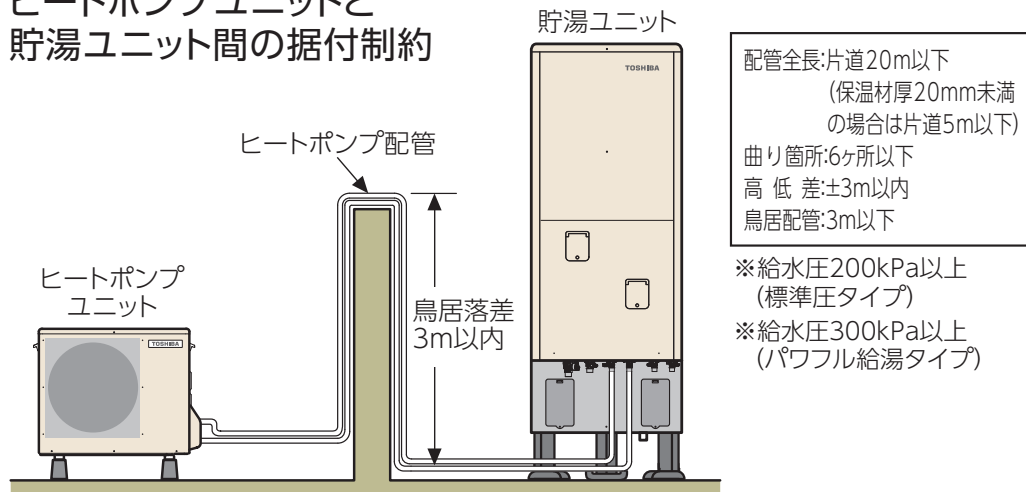
■ヒートポンプユニット

ヒートポンプユニット単体の据付制約

据付場所に余裕があれば効率のよい運転のために、できるだけ広い寸法をおとりください。吹出側に対して前・後・左・右のうち少なくとも2方向を開放し、通風路を確保してください。やむをえず1方向しか開放できない場合、沸き上げ能力が低下する場合があります。



ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約



配管全長:片道20m以下
(保温材厚20mm未満の場合は片道5m以下)
 曲り箇所:6ヶ所以下
 高低差:±3m以内
 鳥居配管:3m以下

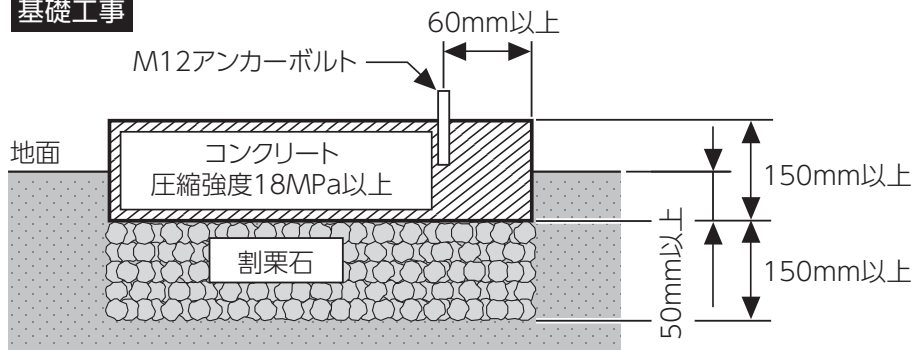
※給水圧200kPa以上 (標準圧タイプ)
 ※給水圧300kPa以上 (パワフル給湯タイプ)

- ※配管からの放熱により、貯湯温度が低くなる場合がありますので、なるべく配管を短くすることをおすすめします。
- ※配管工事時には配管内にゴミ・ホコリが入らないようにしてください。ストレーナーが目詰まりし、出湯量が少なくなったり、タンク内に入り使用中に給湯栓のお湯側からゴミが出る原因となります。ヒートポンプ配管の場合、沸き上げ不良などの故障の原因となります。
- ※逆止弁は動作不良となりますので、取り付けしないでください。

基礎工事

- 貯湯ユニット満水時質量に十分耐えるように基礎工事を行ってください。
- 床面は防水・排水工事を必ず行ってください。
- **コンクリート圧縮強度は18MPa以上にしてください。**

基礎工事



アンカーボルトの施工

- 製品の転倒防止のため、別売部品のアンカーボルトセット (HWH-AKB1) を用いて床面に固定してください。
- ※アンカーボルトの施工はアンカーボルトセットに付属の説明書に従ってください。
- ※3シリーズ製品についてはM12おねじ型アンカーボルト(埋め込み深さ60mm以上)で床面に固定してください。

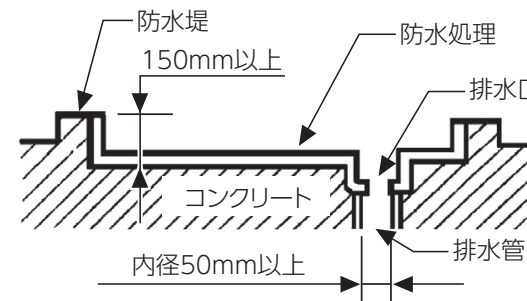
脚の固定方法

- 製品の満水時重量に十分耐え、水平位置が保てるよう水準器で確認し、据え付けてください。
- 製品を水平に据え付けられない場合は、転倒や水漏れをするおそれがありますので、別売部品の脚部固定用スペーサー (HWH-S16-10) をご使用ください。詳しくは、脚部固定用スペーサーに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 地震発生時のゆりみ防止のため、必ず製品付属の平座金・M12ナット・アンカーボルト 付属のフランジナット(フランジ付M12ナット)にてダブルナット固定をしてください。アンカーボルト付属のフランジナットのみでの固定や市販のワッシャーを使用するのは、地震発生時に貯湯ユニット脚からナットが抜けて、貯湯ユニットが転倒するおそれがあります。
- ※貯湯ユニット脚の下には防振ゴムを敷かないでください。
- 防振ゴムを敷くとアンカーボルトのナットがゆりみ貯湯ユニットが転倒するおそれがあります。

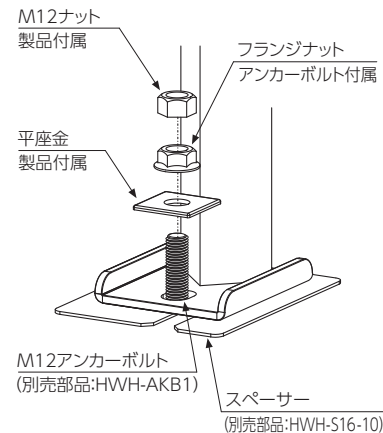
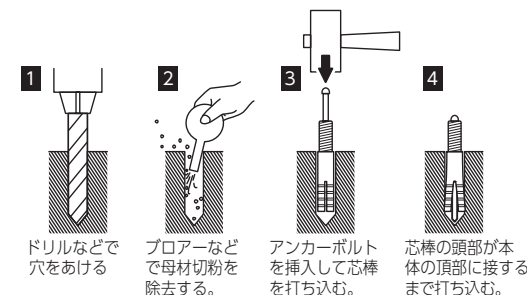
- 1 所定の位置(3ヵ所)にアンカーボルトを施工します。
- 2 平座金・フランジナット・M12ナットを使用して脚(3ヵ所)をダブルナットで固定します。

●大規模地震による給湯設備の転倒・移動による被害を防止するため、国土交通省告示により、貯湯ユニットの転倒防止措置の基準が明確になりました。工事説明書に記載されたアンカーボルト種類、本数による製品脚の確実な固定が必要となります。(2階以上への据え付けの際には別売部品の耐震強化金具(HWH-SK1)による上部固定が必要です)また、560L機種(HWH-B564T・HWH-F563CT)については、強化計算書の提出が求められることがあります。

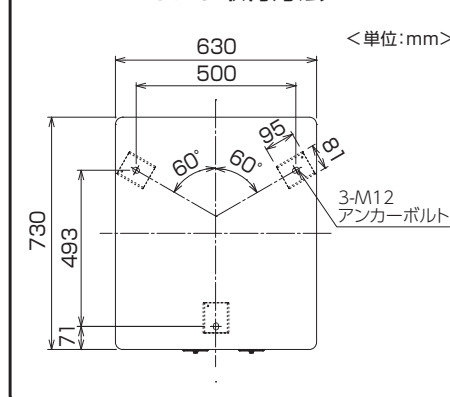
防水・排水工事



芯棒打ち込み式アンカーボルトの施工例



アンカーボルト取付方法(上面透視図)

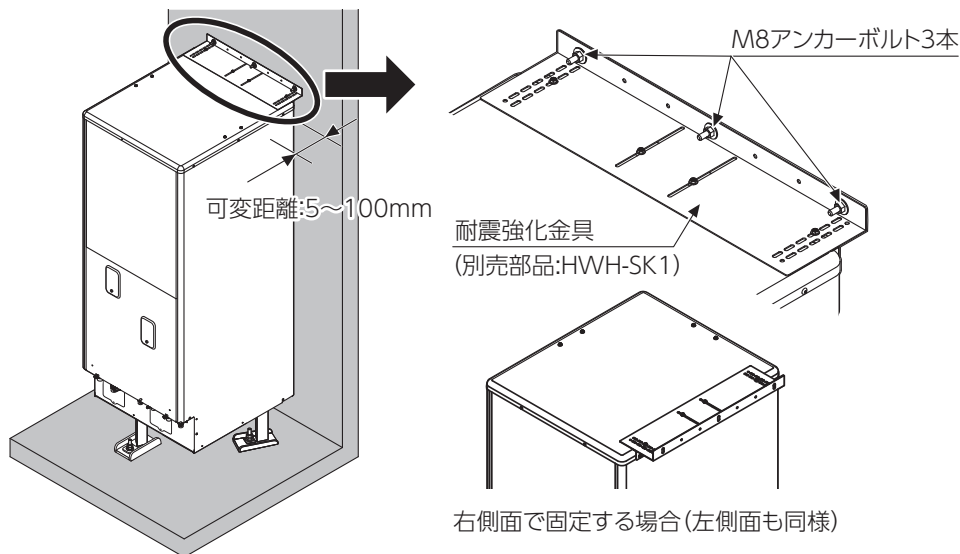


耐震強化(角形タイプの場合)

2階以上に据え付ける場合は、別売部品の耐震強化金具(HWH-SK1)を使用して、M8おねじ型アンカーボルト(埋込み深さ35mm以上)で、十分強度のある壁に固定してください。

※HWH-B564T・HWH-F563CTについては、2階以上には据え付けできません。
※アンカーボルトの施工は、アンカーボルトの説明書にしたがってください。

別売部品の耐震強化金具(HWH-SK1)の取り付け方



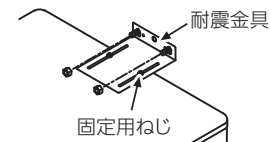
※詳しくは、耐震強化金具(HWH-SK1)に付属の取付説明書をご覧ください。

製品付属の耐震金具について(角形タイプの場合)

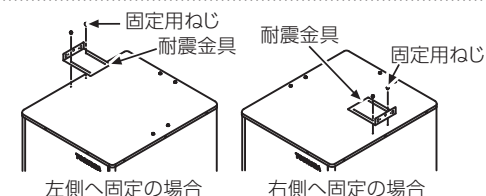
製品付属の耐震金具は2階以上に据え付ける場合の上部固定には使用できません。
※国土交通省の告示にしたがって固定した1階・地階設置を更に強固に固定したい場合に使用します。

耐震金具の付け替え方法は下記の手順にしたがって固定してください。

- 1 固定用ねじを2本はずし、耐震金具を取りはずします。
■はずした固定用ねじは元のとおりに取り付けます。



- 2 左側に移動する場合は左側の固定用ねじを、右側に移動する場合は右側の固定用ねじを2本はずし、はずした固定用ねじで耐震金具を取り付けます。



耐震強化(薄型オーバースリムタイプの場合)

- 2階以上に据え付ける場合は、製品天板に固定されている耐震金具を使用してM8おねじ型アンカーボルト(埋込み深さ35mm以上)で十分に強度のある壁に固定してください。壁面強度がたりない場合など、必要に応じて別売部品の耐震金具取付板(HWH-WK1)をご使用ください。
- 貯湯ユニット外装の上面に壁固定用の金具が付いています。市販のアンカーボルトを使用して、壁のはり部分などに固定してください。
- 耐震金具は、反対側にも取り付けることができます。下記の手順に従って付け替えて使用してください。

耐震金具の付け替え方法

- 1.固定用ねじを4本はずし、耐震金具を取りはずします。
●はずした固定用ねじは元のとおりに取り付けます。
- 2.右側面に移動する場合は右側面の固定用ねじを4本はずし、はずした固定用ねじで耐震金具を取り付けます。

